

《口腔科学研究科博士課程 口腔科学専攻（歯学）》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するのは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー		【1. 高度な理解力】	【2. 国際性と課題解決能力】	【3. 新たな可能性の探求能力】	【4. 高度専門技術】	科目の教育目標
		主要授業科目		口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発見的探究の可能性と実現性を探索できる能力	修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができるとともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力	
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		◎	○				生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。
	臨床心理学		◎					臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎					社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標とする。
	英語論文作成法		◎	○				21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。
	生命科学の研究手法		◎		○			医科学・生命科学研究に必須の初歩的技術が理解できる
	医療系分野における知的財産学概論		◎		○			1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動する際に役に立つ知的財産制度の内容を理解する。
	生命科学コミュニケーション特論		○		○		◎	英語による先端抗腫瘍の理解をした上で、それをまとめたプレゼンテーションができる。プレゼンテーションに対して適切に議論ができる。
各専攻系間の共通カリキュラム科目	ヒューマンサイエンス（形態と機能学）		◎		○			1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報との仕組みを理解できる。 4. 実験法、情報伝達の仕組みを説明できる。 5. 以上の知識に基づいて課題について調査し自らの考えでまとめることができる。
	微生物・免疫学実習		◎		○			微生物学及び免疫学の基本的な技術を習得する。
	臨床医学概論		◎					循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機序および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。
	プロテオミクス概論		◎					ポストゲノム時代における医学および生物学に重要な位置を占めるプロテオミクスの基礎を習得する。
口腔科学課題研究科目	先端口腔科学特論	○	○	◎	○	○		口腔科学の基礎から臨床に至る最先端の研究を理解するとともに、口腔疾患の診断や治療法などに広範に習得する。
	口腔科学課題研究演習	○	○	◎	○	○		口腔科学に関する様々な課題に対して、研究方法、結果の解釈などを習得する。
	アカデミックプレゼンテーション	○		◎		○		To gain knowledge on the essential information and techniques for effective writing and presentation of scientific information.
	医療倫理と研究倫理	○		◎		○		人権および医の倫理を理解し、研究活動に反映させる。
	口腔生理学	○		◎		◎		味覚・嗅覚などの化学感覚情報処理機構を理解する。ストレスの中枢神経系への作用を理解する。唾液腺の構造と機能および産生する生理活性物質について理解する。水チャネル、アクアポリンの唾液腺等外分泌腺における発現調節・機能調節の分子機序を理解する。炎症性サイトカインおよび急性期蛋白質の発現（誘導）とその生理的役割等について理解を深める。
	口腔生理学演習	○				◎	◎	味覚と嗅覚という2つの異なる化学感覚がどのレベルで統合され、また大脳辺縁系とどのように関わるのかについて、最新の研究をもとに理解を深める。水チャネル、アクアポリンの唾液腺等外分泌腺における発現調節・機能調節の分子機序、並びに炎症性サイトカインおよび急性期蛋白質の発現（誘導）とその生理的役割等に関する最新の文献を精読し、理解を深める。
口腔微生物学	○		◎			◎	口腔領域および全身の感染症の病態、原因となる微生物、治療法および予防法、さらに感染症に対する人の防御機構である免疫系について学ぶ。	

ディプロマ・ポリシー		科目名	主要授業科目	【1. 高度な理解力】	【2. 国際性と課題解決能力】	【3. 新たな可能性の探求能力】	【4. 高度専門技術】	科目の教育目標	
				口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力	修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができるとともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力		
専門科目	口腔科学課題専攻科目	口腔微生物学演習	○			◎	◎	微生物学・免疫学に関する様々な課題を自ら見出し、研究の立案、実施、結果の解釈などを習得する。	
		歯周歯内治療学	○		◎		◎	歯内および歯周疾患の特徴を理解し、診断および治療に必要な最新の知識を習得し、さらには全身疾患との関連性についても理解する。	
		歯周歯内治療学演習	○				◎	◎	歯内および歯周疾患の病態の解明や診断・治療法に関する研究・実験手法や分析・解析を習得し、リサーチマインドを育成することを目的とする。
		口腔顎顔面補綴学	○		◎			◎	口腔・顎顔面領域の機能と形態の加齢と病的变化を組織レベルとマクロレベルの両面から理解するとともに、高齢社会において必要な口腔顎顔面補綴学を学ぶ。
		口腔顎顔面補綴学演習	○				◎	◎	時代に即応した将来性のある研究テーマの発掘と高齢者の口腔顎顔面補綴研究に対するモチベーションを高める。
		総合口腔学	○		◎			◎	口腔機能の維持管理法に必要な最新の知識と技能を理解する
		総合口腔学演習	○				◎	◎	口腔機能の維持管理法に関する最新の学術論文を教材として究手法を学び、それを応用できる能力を習得する。
		口腔組織学	○		◎			◎	生体を構成する一般的な細胞と組織の構造と機能及びその病的対象について細胞および分子レベルで理解する。
		口腔組織学演習	○				◎	◎	人体の正常な細胞、組織の構造と機能について理解し、それに関する実験の基礎を修得する。
		口腔病理学	○		◎			◎	口腔疾患に関する診断学の知識を習得するとともに、口腔疾患の病態を理解する。
		口腔病理学演習	○				◎	◎	口腔疾患の診断の実践及び口腔疾患の病態を理解するための研究内容を実践的に学ぶ。
		口腔生命科学	○				◎	◎	生体が織りなす生命現象や口腔領域の疾患が発症する分子メカニズムが説明できる。
		口腔生命科学演習	○		◎			◎	生体が織りなす生命現象や口腔領域の疾患が発症する分子メカニズムが説明できる。論文の構成や発表技法の基本を理解する。
		口腔外科学	○		◎			◎	口腔外科的疾患の病態の理解、診断および治療に必要な最新の知識の習得を目的とする。
		口腔外科学演習	○				◎	◎	口腔外科的疾患の病態、診断および治療に関する最新の学術論文を題材として、研究の進め方を理解する。
		歯学教育フロンティア学	○						
		歯学教育フロンティア学演習	○						
		予防歯学	○		◎			◎	人間の総合的な健康の向上を目的に、歯・口腔の機能の向上を図るための理論を修得する。
		予防歯学演習	○				◎	◎	人間の総合的な生活の質と口腔環境の関わりについて、最新の学術論文を抄読して理解を深めるとともに、これらの分野の研究計画法を修得する。
		口腔顎顔面矯正学	○		◎			◎	頭蓋顎顔面骨格の成長の評価とそのコントロールの意義、ならびに不正咬合が及ぼす様々な影響を科学的根拠をもって理解するとともに、矯正患者の症例分析、診断、治療方針立案および治療に必要な最新の知識と技術の習得を目的とする。

ディプロマ・ポリシー 科目名		主要授業科目	【1. 高度な理解力】	【2. 国際性と課題解決能力】	【3. 新たな可能性の探求能力】	【4. 高度専門技術】	科目の教育目標
			口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力	修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができるとともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力	
	口腔顎顔面矯正学演習	○			◎	◎	顎顔面領域の形態・機能異常に関連した疾患の発現機序の解明とその新しい治療法の開発を図るための研究内容を実践的に学び、その実証方法を修得する。
	小児歯科学	○		◎		◎	小児の口腔健康増進の意義およびその実践として科学的手法・分析方法を最新の知見を含めて理解する。
	小児歯科学演習	○			◎	◎	小児の口腔健康増進を図るための作業仮説や実験計画の立案およびその実証方法を修得する。
	口腔顎顔面形態学	○		◎		◎	口腔顎顔面領域の形態と機能の回復に必要な局所解剖学的知識と硬組織再生機構の概念を理解させる。
	口腔顎顔面形態学演習	○			◎	◎	口腔顎顔面領域の局所・臨床解剖学的事項や硬組織再生機構を内容として課題を課し、いわゆる「知的生産の技術」を修得させる。
	生体材料工学	○		◎		◎	物質科学と材料工学に基づいて、生体医用材料の物性と機能を理解する。
	生体材料工学演習	○			◎	◎	物質科学と材料工学に基づいて、生体医用材料の研究・開発の現状を学ぶ。
	歯科保存学	○		◎		◎	歯の硬組織疾患、歯髄疾患、歯周疾患における診断法、治療法、修復法についての知識の習得とその研究の進め方の修得を目標とする。
	歯科保存学演習	○			◎	◎	歯の硬組織疾患、歯髄疾患、歯周疾患における診断法、治療法、修復法についての作業仮説や実験計画の立案およびその実証法の修得を目標とする。
	顎機能咬合再建学	○		◎		◎	顎口機能性を評価するために必要な知識を修得することにより、顎機能障害や顎顔面補綴症例に対する咬合の管理方法を学習する。
	顎機能咬合再建学演習	○			◎	◎	顎機能障害や顎顔面補綴症例を対象とした顎口機能性の診査・診断のために必要な技術を修得する。
	口腔内科学	○		◎		◎	口腔顎顔面領域に生じる各種疾患の予防、診断的的確に行い、その治療を主として内科的手法にて行うことを学ぶ。
	口腔内科学演習	○			◎	◎	超高齢社会の今日、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急増していることから、病院などの医療施設のみならず、介護施設においても患者や入所者の方々のQOLの改善および健康増進方法を学ぶ。
	歯科放射線学	○		◎		◎	放射線は何かということをもマイクロの世界(量子力学的な世界)まで考慮して理解するとともに、放射線防護体系の基本的要素(行為の正当化、防護の最適化、個人線量限度の適用)に則した放射線利用を身につける。
	歯科放射線学演習	○			◎	◎	放射線とは何かということを実習を行いながら理解するとともに、医療での放射線の利用を体験する。
	歯科麻酔科学	○		◎		◎	侵襲から生体を防御し、全身管理を行う歯科麻酔科学の基礎的知識を習得する。
	歯科麻酔科学演習	○			◎	◎	臨床歯科麻酔科学の知識・技能を修得する。
	長寿歯科医療学	○		◎		◎	高齢化社会における長寿歯科医療に関して、基礎から臨床にわたる広範囲の知識を習得する。
	長寿歯科医療学演習	○			◎	◎	長寿歯科医療の専門的な知識に加え、実践的な内容を習得する。
	クラスターコアセミナー	○			○	◎	各クラスターが実施するセミナーにより、専門的な知識を習得する。
	実践口腔科学コアセミナー	○				◎	口腔科学に関する大学院レベルの一般的知識を習得する。
	実践口腔科学実習	○				◎	臨床実習を通じて口腔疾患の診断法、治療技術を学び、最先端の歯科医療の提供を実践する能力を習得する。
	高齢者歯科学実験実習	○				◎	高齢者特有の疾患や障害の制圧に向けた講義を研究し、学術論文にまとめるための知識、技術を習得する。

ディプロマ・ポリシー		科目名	主要授業科目	【1. 高度な理解力】	【2. 国際性と課題解決能力】	【3. 新たな可能性の探求能力】	【4. 高度専門技術】	科目の教育目標
				口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力	修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができることともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力	
		難治口腔疾患制御学実験実習	○				◎	難治性口腔疾患の治療に貢献するために、その病態解明と治療法の開発を目的とした研究の進め方を習得する。
		顎口腔発育・社会歯科学実験実習	○				◎	成長発育過程で生じる顎口腔形態・機能異常の発症機序の解明、予防法・治療法開発について実験し、その成果を学術論文にまとめる方法を習得する。
		口腔機能再建学実験実習	○				◎	組織再建や口腔機能回復に関する実験を通じて、成果を学術論文にまとめる方法を習得する。